

【フィリピン共和国】

先日、協会の国際理解講座で、フィリピン人の主婦にフィリピンの家庭料理「ギニサン・モンゴ」(モンゴ豆を使った具たくさんの野菜スープ)と「マハ・ブランカ」(ココナッツミルクを使ったミルク寒天)を教わりましたので、今回はフィリピン共和国を紹介したいと思います。

フィリピン共和国へは、関西国際空港から飛行機で、5時間で行くことができます。アジア大陸の南東に位置する大小7,109の島々からなる国です。熱帯地域に属するので、雨季(6月～11月)と乾季(12月～5月)があります。気温は年間を通じて平均27℃ぐらいなので、1年中Tシャツで過ごせる常夏の国です。

国民性とは言うと、明るいらテン系で、「バハラマ・ブーカス(明日は明日でなんとかなるさ)」という言葉が存在するように、陽気でフレンドリーな人が多いのも特徴です。

フィリピンで話されている言葉は、島の数だけ存在すると言われていています。公用語でもあるフィリピン語はマニラ周辺のタガログ族が使っていたタガログ語がもとになっています。今からお伝えする5つの言葉を知っておけば、フィリピン人と仲良くなれるチャンスです。まず1番多く使われる挨拶は「クムスタカ(Kumusta ka)?」と言って、英語でいう「How are you?」と同じ意味です。そして「クムスタカ?」と聞かれたら、「マブーティ ナマン(Mabuti naman)」と答えてみてください。日本語の「元気です」と同じ意味になります。また何かしてもらった時の「ありがとう」は、「サラーマット(Salamat)」で、お別れの挨拶、「さようなら」は「パアラム ナ(Paalam na)」です。最後にフィリピンには美味しい料理がたくさんあるので、「マサラップ(Masarap)」「おいしい」もぜひ覚えておいてください。実は、丸亀市に住んでいる外国人でフィリピン人は3番目に多いので、フィリピン人と仲良くなったら、ぜひ使ってください。それ以外でもフィリピンはスペイン語の影響も受けていて、数字を数える時などは、「ウノ、ドス、トレス…」とスペイン語で表したりもします。またフィリピンの学校では英語教育が重要視されているのもあって、英語も通じる国なので、最近は日本人が簡単に英語留学できる国としても注目を集めています。フィリピンに行けば、様々な言葉や文化を一度に味わえますね。

皆さん、リゾート地として「セブ島」という名前を聞いたことはありませんか?セブ島はフィリピン屈指のリゾートアイランドで、高級ホテルやショッピングセンター、カジノなどが揃った人気の観光スポットです。温暖な気候に陽気な人たち、食べ物も美味しいフィリピン共和国、これを機に興味を持っていただけたらうれしいです。

